



あ、自分にもできる（親近感）活動があるかもしれない（興味・関心）参加してみよう（行動）  
そんな会員向け通信を目指しています。



## 授業支援の会と地域デザイン

授業支援の「価値」を高めることを常に視野に入れていると話すのは、内山正人会員だ。ボーイスカウト活動にも携わっており、日本ボーイスカウト初代総裁・後藤新平の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」というボランティア精神を内に秘めている。

地域という観点から見ると、高齢化、人口減、インフラに悩む地方に必要なヒト・モノ・カネのうち、ヒト（人材育成）に貢献できると考える。探究授業（\*注）など、先生だけでは難しい授業では、社会人として経験豊富な人材をもち、テーマに柔軟に対応、学年をカバーする人数を揃えられるのも強みだ。地方ではそのような講師を集めにくく、地域デザインとの連携で地方での授業を行えればそれも一つの価値になるだろう。

高齢化による生徒/先生との世代ギャップを縮めるための自己研鑽を継続し、更に価値を高めていきたい。準備は大変だが、生徒からのコメントを読むと満足を感じる活動だ。

談：内山正人/教育支援本部長・授業支援の会会長（1341）

### 編集部注記

探究授業：変化の激しい社会への対応力を身に付けるため、知識だけでなく、思考力・判断力・表現力などの「生きる力」を育むことを目的とした授業。2022年の学習指導要領の改訂から導入され、教員側は知識伝達だけでなくファシリテート（伴走・支援）する必要があるとされています。

◆ ◆ 私の推し街 連載 ◆ ◆



## 妻のふるさと ～郷土博物館と フィギュアの街 高知県四万十市

平井隆一（1022）

私の妻の故郷は四国の山の中。高知県の北西の端、愛媛県との県境近くの田舎である。今は四万十市に編入されているが、昔の住所は高知県幡多郡西土佐村大字津野川で、現在の県立中村高等学校西土佐分校のすぐ傍。四万十川の支流である目黒川が流れていた。

45年前、大庄屋だった大きな古民家に家族で泊まったことがある。この家に残っていた漆の膳など夥しい数の古道具の他、大名籠、薙刀、捕り物用具、養蚕用具、古文書などが埃を被っていたのを見たが、その後それらを中村城天守閣にある郷土博物館に寄贈したとの記録が手元に残っている。



四万十川に架かる沈下橋

写真出所：四万十市観光協会

四万十市のお隣四万十町にある「海洋堂ホビー館」も面白い。廃校になった小学校の体育館を利用して、プラモデル、フィギュアなど海洋堂が製作したキャラクターと歴史を展示している。最近では人気アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」のフィギュア展をやっていたが、正確な三次元化を30年続けて来た海洋堂の技術の集大成と言える展示であった。



### 《イベントのお知らせ&報告》

・3月18日 知楽会 15:00～ @DF オフィス 751

地域デザイン総研がフレイル予防のセミナー開催予定

フレイル予防の現場見学、11月の辻先生の講演に続き、DF 会員向けの展開第3弾

**問い合わせ先**：ご意見、感想、お問合せなど下記までお寄せください。お待ちしております

[dfchiiki-tsushin@directforce.org](mailto:dfchiiki-tsushin@directforce.org)

編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

（編集後記） ボランティア精神とは見返りを求めず相手の役に立つこと。上から目線や自己満足に陥らず、自分たちの価値を高め続けていける組織が残っていくのかもしれない（CK）

**地域デザイン通信** バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/>  
ページの一番下までスクロールしてください。